

## 引用文献

- Benner,P.(1984).ベナー看護論:達人ナースの卓越性とパワー.井部俊子他.(1992).医学書院, 22.
- Cohen J, Houttekier D, Onwuteaka-Philipsen B, et al.(2010)Which patients with cancer die at home? A study of six European countries using death certificate data : *J Clin Oncol.* 1, 28(13), 2267-73.
- Gomes B, Higginson IJ. (2006).Factors influencing death at home in terminally ill patients with cancer: systematic review. *BMJ* 4(332), 515-21.
- がん情報サイト PDQ 日本語版 <http://cancerinfo.tri-kobe.org/> [2014-05-14]
- グレッグ美鈴,麻原きよみ,横山美江編著.(2010)質的研究の進め方・まとめ方 看護研究のエキスパートを目指して,医歯薬出版株式会社, 69.
- 平松瑞子,中村裕美子.(2010).療養者とその家族の退院に関連する療養生活への不安.大阪府立看護学部紀要, 16(1),9-19.
- 府川晃子,森下利子,藤田佐和,他.(2010).進行がん患者のギアチェンジを支える援助における阻害要因. 高知女子大学看護学会誌, 35(1), 16-26.
- 藤田佐和, 森下 利子, 府川 晃子,ら.(2010).がん患者のギアチェンジを支える援助モデルの開発,がん診療連携拠点病院の医師の実践内容に焦点をあてて.日本看護科学学会学術集会講演集 ,30,315.
- 福井小紀子.(2007).入院中末期がん患者の在宅療養移行の検討に関連する要因を明らかにした全国調査.日本看護科学学会誌.27, (2) ,92-100.
- 福井小紀子.(2007).入院中の末期がん患者の在宅療養移行の実現と患者・家族の状況および看護師支援・他職種連携との関連性の検討—在宅療養移行を検討した患者を対象とした二次分析の結果. 日本看護科学学会誌, 27, (3), 48-56.
- 葉山学, 井上英樹, 岡村 美里,他.(2014).進行肺癌患者における End-of-Life Discussion の時期,日本呼吸器学会誌 3 巻増刊,309.
- 蒔田寛子,三浦さえ子,風間祐子,ら.(2014).病棟看護師と訪問看護師の連携促進強化の試み—入退院連携シート(退院時共同指導説明書)の作成と活用—,豊橋創造大学紀要, 18,41-53.
- S. Fukui.(2011).Late referrals to home palliative care service affecting death at home in

- advanced cancer patients in Japan:a nationwide survey. *Annals of Oncology* 22, 2113–2120.
- 高島尚子,三輪恭子,九里美和子,他.(2013).病院における看護職員需給状況調査,日本看護協会.
- 谷澤久美,高沢洋子.(2007).終末期がん患者の在宅移行期の連携—病棟看護師と訪問看護師との退院支援カンファレンスの効果—, *死の臨床*, 30 (2), 237.
- 飯塚麻紀.(2010). 臨床判断研究の文献レビュー (1998 年～2007 年). 福島県立医科大学看護学部紀要 12,31-42.
- Ji Eun Choi, Mitsunori Miyashita, Kei Hirai, et al. (2012.). Making the Decision for Home Hospice: Perspectives of Bereaved Japanese Families who had Loved Ones in Home Hospice.: *Japanese Journal of Clinical Oncology* 42(6), 498-505.
- 加利川真理,小河育恵.(2013). ギアチェンジ期にあるがん患者の療養場所の移行を支援する一般病棟看護師の困難さ. *ヒューマンケア研究学会誌*,4(2) ,7-16.
- 小松浩子,小島操子.(1988). ターミナルケアに携わる看護婦と医師のストレス, *看護学雑誌* 11 (52).
- 厚生労働省.人口動態統計.(2013).<http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/81-1a.html>. [2014-5-14]
- 川本俊治,砂田 祥司, 重松 研二, 他.(2014). 電子カルテを使ったリビング・ウィルと終末期事前指示の登録にみる、がん疾患患者と非がん疾患患者の比較. *医療*,68(8) ,392-398.
- 川越博美.(2014). 退院支援で大事なこと.コミュニティケア.日本看護協会出版会, 16, (12) , 36-39.
- Leeat Graneck,Monika K,Richard Tozer.(2013). Oncologists' Strategies and Barriers to Effective Communication About the End of life. *Journal of Oncology Practice*, 9, (4), 129-135.
- Mack JW, Cronin A, Keating NL, et al. (2012).Associations between end-of-life discussion characteristics and care received near death. *J Clin Oncol*. 35, 10-30.
- Micael Lopez-Acevedo,Laura J.Havrilesky,Gloria Broadwater.(2013). Timing of end-of-life care discussion with performance on end-of-life quality indicators in ovarian cancer. *Gynecologic Oncology*, 120,156-161.

National cancer institute PDQ(2014)

<http://www.cancer.gov/cancertopics/pdq/supportivecare/lasthours/healthprofessionals/page1> [2015-01-28]

西澤真千子,小河原宏美,中村佑佳,他.(2010). 急性期病院における看護師の終末期がん患者ケアに対する困難感, 長野赤十字病院医誌, 24, 50-54.

西尾 亜理砂.(2011). 病棟看護師におけるがん患者の治療法の意味決定支援と影響要因に関する検討. 日本看護科学会誌,31(1),14-24.

西尾 亜理砂,藤井徹也.(2013). がん患者の治療法の意味決定に対する看護師のかかわりの程度と看護の実践状況. 日本がん看護学会誌,7 (2),27-36.

小澤桂子.(2006).ギアチェンジがなかなかできない患者さんにはどのようにかかわれば良いでしょうか?.ナーシングケア Q&A,第 11 号,28-29.

大川宣容,吉田亜紀子,藤田佐和,他.(2007). 終末期がん患者の在宅ケアへの移行に向けての取り組みを阻む要因, 看護師が捉える家族側の要因.高知女子大学紀要, 56,1-9.

大川宣容.(2010).がん医療におけるギアチェンジに関する文献的考察.高知女子大学紀要(看護学部編), 59, 73-80.

OPTIM Report. (2012).エビデンスと提言緩和ケア普及のための地域プロジェクト報告書. 奥村 美奈子(2013). A 県における終末期がん患者在宅療養支援体制の課題. 岐阜県立看護大学紀要,13(1), 103-113.

Pardon K, Deschepper R, Vander Stichele R, et al.(2012).Preferred and actual involvement of advanced lung cancer patients and their families in end-of-life decision making . *J Pain Symptom Manage*, 43, (3), 515-26.

佐藤 まゆみ.(2012). 終末期がん患者の在宅緩和ケア移行支援においてスタッフナースが必要とする知識とその獲得状況. 千葉県立保健医療大学紀要, 3(1),45-51.

Stajduhar KI, Allan DE, Cohen SR, et al.(2008).Preferences for location of death of seriously ill hospitalized patients: perspectives from Canadian patients and their family caregivers. *Palliat Med*, 22(1), 85-8.

佐々木治一郎,佐伯祥,佐藤亮,他.(2011).外来化学療法施行中の肺癌患者に終末期を見越したACP(Advance Care Planning)は可能か?.肺, 51(5), 408.

坂井桂子.(2011).進行がん患者の療養の場の選択の意味決定に影響を及ぼす患者・家族の要因(報告). 石川看護雑誌 *Ishikawa Journal of Nursing* Vol.8.

- Sheila.A.Corcoran.(1990).看護における Clinical Judgment の基本概念,看護研究,23(4),351-360.
- Strauss, Anselm L.Corbin, Juliet M. (1990). 質的研究の基礎 : グラウンデッド・セオリーの技法と手順. 南裕子,操華子訳(1994). 医学書院, 55-205.
- 谷亀光則, 大本和子, 岩川弘子,他.(2005).在宅医療の地域展開の方法論と実施に関する研究 医療と福祉, 382, 32-43.
- Teruya Noriko. (2012).沖縄における末期癌患者の病院から在宅ケアへの移行に関連した因子 琉球医学会誌, 31, 1-2,11-23.
- 藤内美保,宮腰由紀子.(2005).看護師の臨床判断に関する文献的研究 臨床判断の要素および熟練度の特徴.日本職業・災害医学会会誌 53(4), 213-219.
- 津村明美, 山崎あけみ, 上別府圭子.(2010).終末期の過ごし方の意思決定における悪性グリオーマ患者・家族への看護方略. 日本看護科学会誌,30,(4),27-35.
- 田尻信子,鈴木志津枝.(2009).終末期がん患者の在宅導入期における訪問看護師の取り組み. 高知医療センター医学雑誌,3(2) ,5-14.
- 宇都宮 宏子.(2011).これからの退院支援・退院調整 ジェネラリストナースがつなぐ外来・病棟・地域,日本看護協会出版会.
- 吉原律子,宮地登代子,小川富美子.(2013).退院調整看護師からみた病棟看護師の在宅の視点と退院支援・調整への関わり.OPTIM 付帯研究(2), 559.
- 柳原 清子.(2008).がん患者家族の意思決定プロセスと構成要素の研究 ―ギアチェンジ期および終末期の支援に焦点をあてて―. ルーテル学院研究紀要,42.
- 山川 宣.(2006).緩和医療とスピリチュアルケア. *Medical Science Digest*, 32(7)280-283.